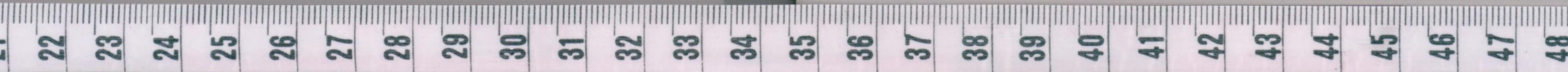
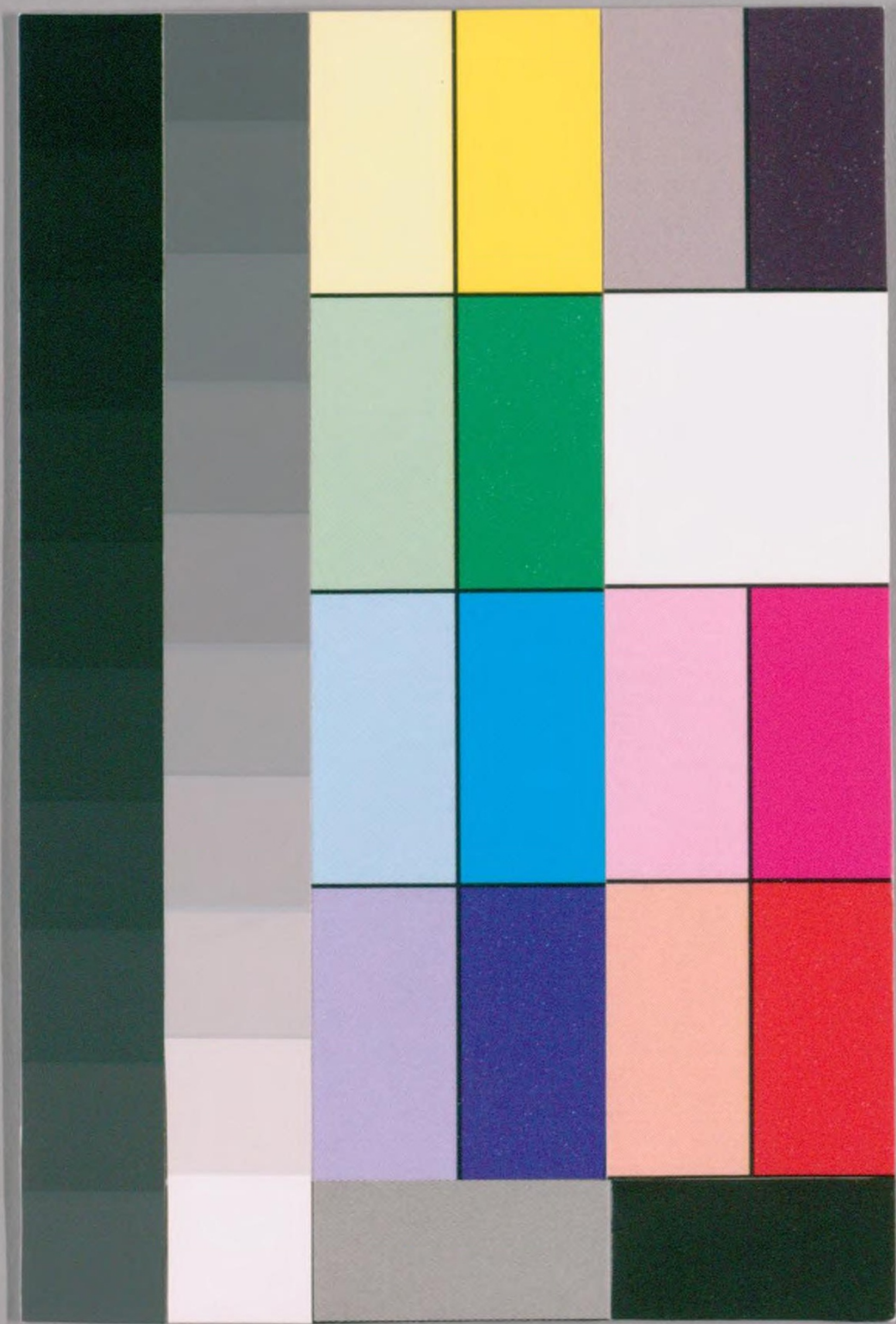


京乙  
342

別圖

5-5  
3-4



国立国会図書館 タイトル『俳諧漫画』 請求記号 寄別5-5-3-4

ガラス使用



俳諧漫画  
二編  
全

文芸部蔵書

吉永吉水撰  
著師書畫

大正  
8.11.5  
購求





什磨五七五の俳諧へち武字澄み葎り宗因みりうもつとも盛ありと  
 りどもいまご全死正風秋海も唯芭蕉の俳聖りうもさの蘆園秋宛し  
 より九重の都へさらあつりまきかゝ鄙みおあひくゝ花も鳴く鶴翠水も住む  
 船所もつまらば道ふらさるゝあく右知み月次の奉燈りま左知み四季の  
 掛額りり柳風呂の二階苗俳諧の取次まれば是がゝあふ風士集り梅が茶  
 や屋の柱かてお宗匠の吟連あまの駿客まがゝあふ腰次止む流行新の  
 どれをもも僕俳事お興らもど例の戯墨の困りまどふ古人の秀句ふ  
 画紙交へる航て一部の小冊とせ紙書肆乞とりて梓木上せ尚その  
 後集あふんといふ仍る初集あふ渙さるゝいささら爰あ摺り出せり三集四集あ  
 いさあ夫當時雷名の玉句か加へんりる海内の俳風子かゝる弟子と  
 厭ひまもど何まも四時の高吟か草庵へ一章や投あゝおあふん

西の春新鑄

鳥永春水誌

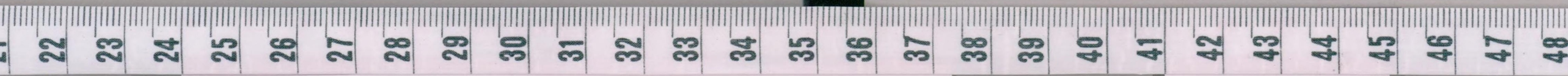




古池や  
 花の  
 水  
 とせ  
 秋



庭前  
 不  
 桃  
 梅  
 あり  
 門  
 人  
 子  
 其  
 角  
 嵐  
 雪  
 あり  
 桃  
 の  
 小  
 梅  
 青  
 桃  
 と  
 梅  
 の  
 花  
 の  
 隙











梅の  
花の  
人  
灯を  
着や

手折  
人  
梅の花

鳥居あり



茶  
一  
は

野の  
竹  
竹  
その日



梅  
田  
初唐

梅の  
秋

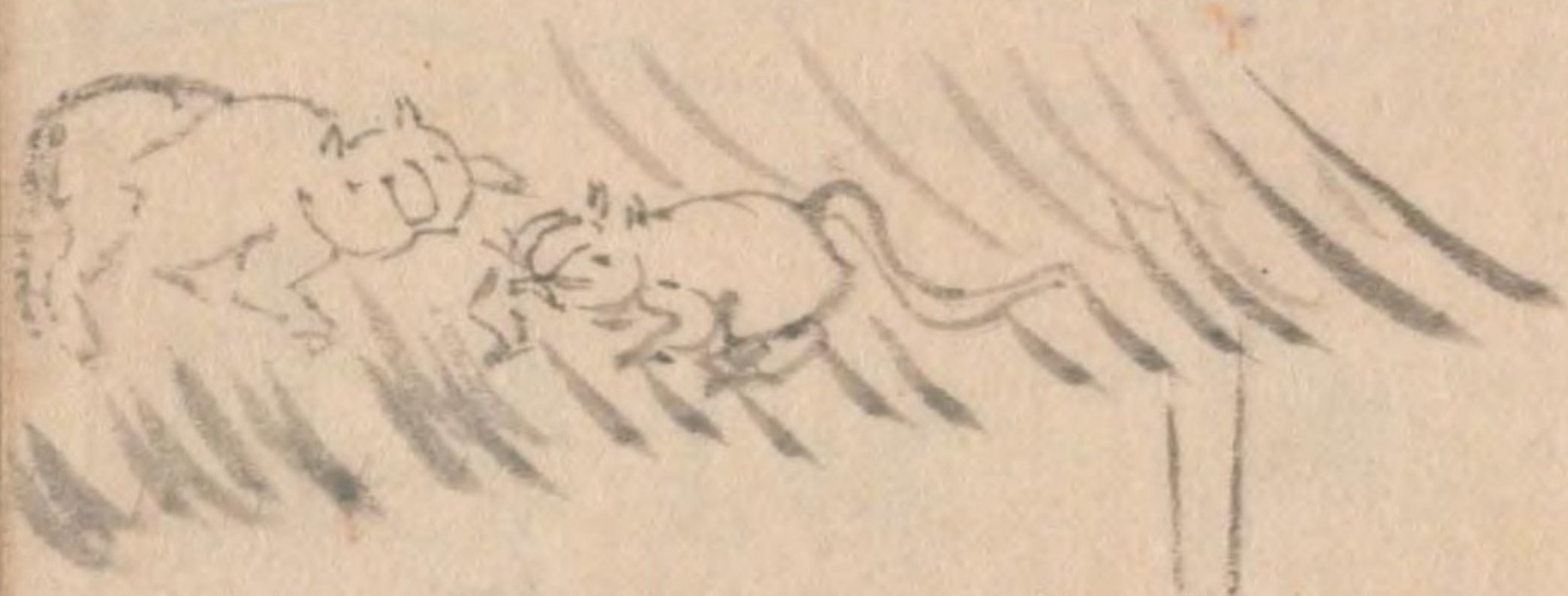
何  
初唐

声や  
漢

鶴の  
根



二月も  
物ものの意い



春はるの  
月つき

白しろ魚うし小こ價ね  
ううららああまま



白しろ魚うしの  
ちちりりの  
ああままの



新あらた池いけの  
ひひららいい

ひひととああままの

ああままの  
ああままの

ああままの

ああままの  
ああままの

ああままの

ああままの

ああままの

ああままの

ああままの

ああままの



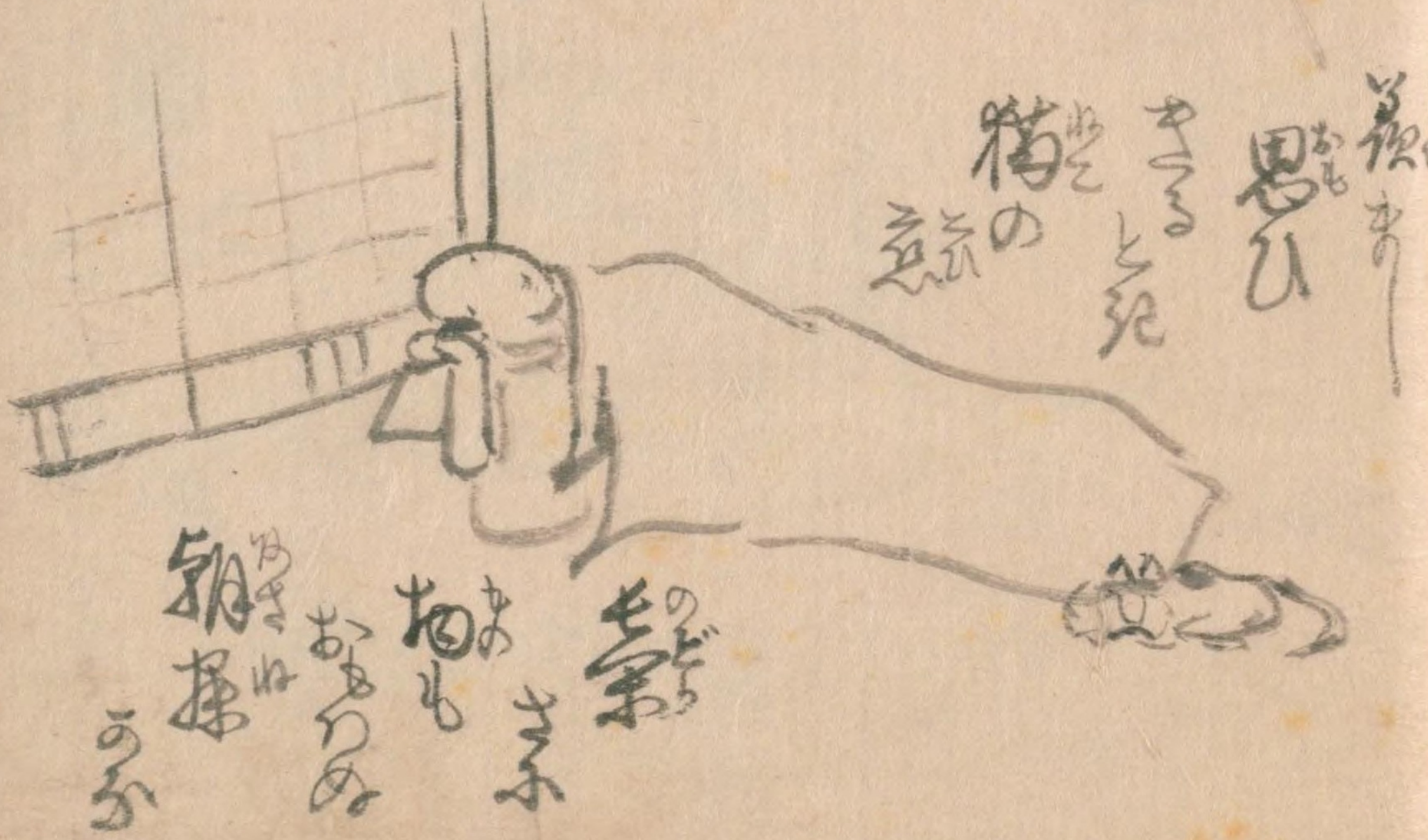
ああままの  
ああままの





あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの













あまの  
あまの山  
花

世の中  
足ぬ  
梅

痛  
首  
花

梅

花の  
山



花  
花  
花

花  
花  
花

花  
花  
花

花  
花

花  
花  
花





おのの山  
花の山

梅の花

足

梅の花

梅の花

梅の花

花の山

梅の花

山



梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花

梅の花









花よりおめで  
 せむぎや  
 二日三日  
 かのの海ひ  
 かめり  
 せむぎも  
 海へ探さる  
 散るや

貴ひもの  
 貞母に  
 帯は  
 とりせ  
 けう



野を橋ふ  
 月が  
 山  
 田  
 名あり

郭  
 二の橋の  
 田  
 常らぬ万よ  
 危り  
 杜





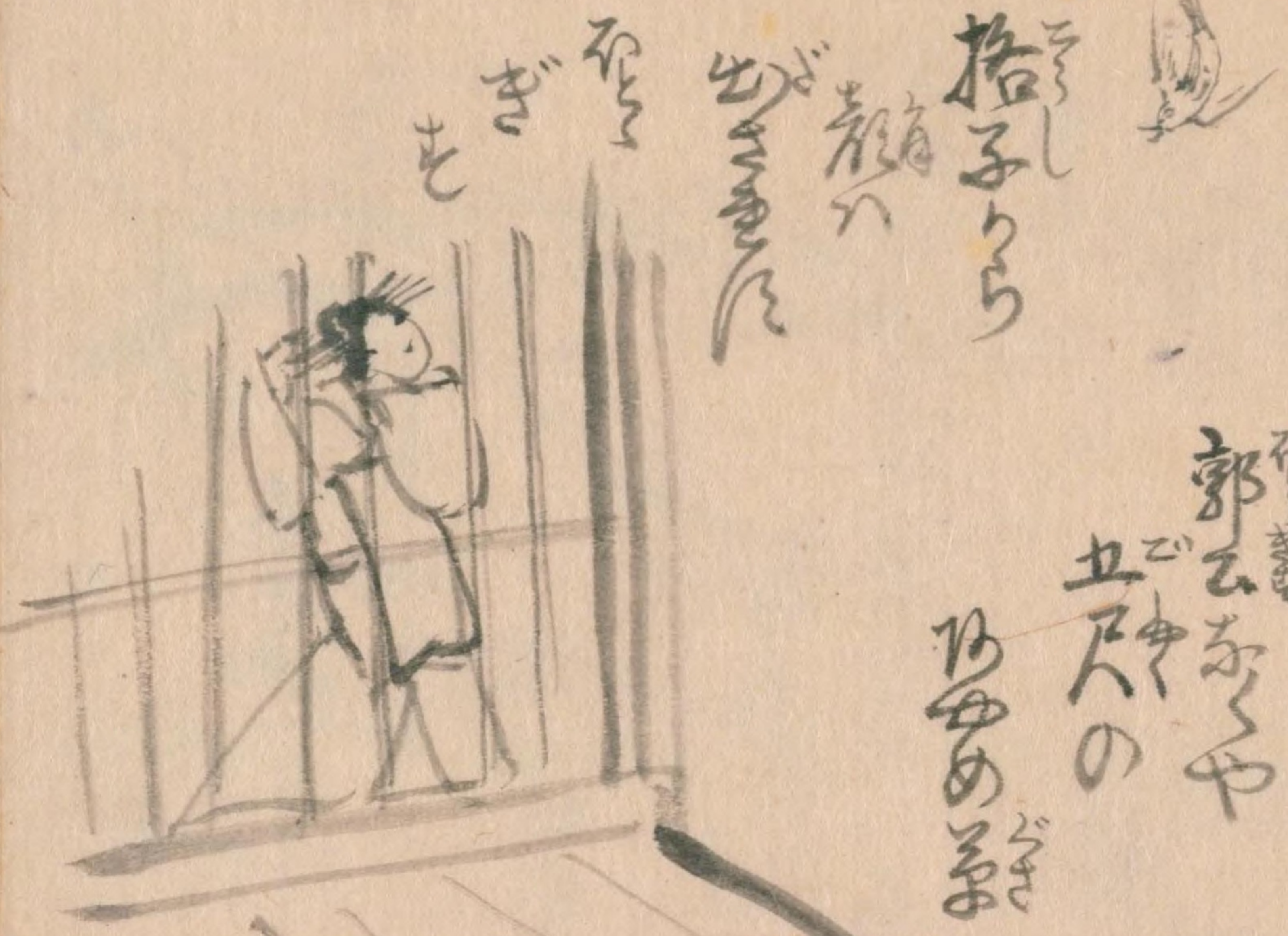












格くわ子しくら  
老らうのの花はな  
花はなのの花はな  
花はなのの花はな

郭かく公こうあや  
五ご尺じちのの  
あやめ



梅うめのの花はな

梅うめに  
梅うめのの花はな



梅うめのの花はな  
梅うめのの花はな



梅うめのの花はな



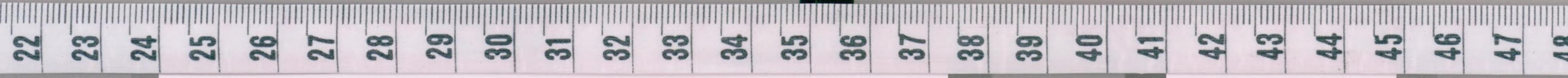
西せい施しが  
会かい歌かのの花はな  
花はなのの花はな

東とう陽やうあや  
惟ただ子ことと兒ゐのの  
花はなのの花はな



競けい馬ば  
上うへのの  
花はなのの花はな

花はなのの花はな  
花はなのの花はな







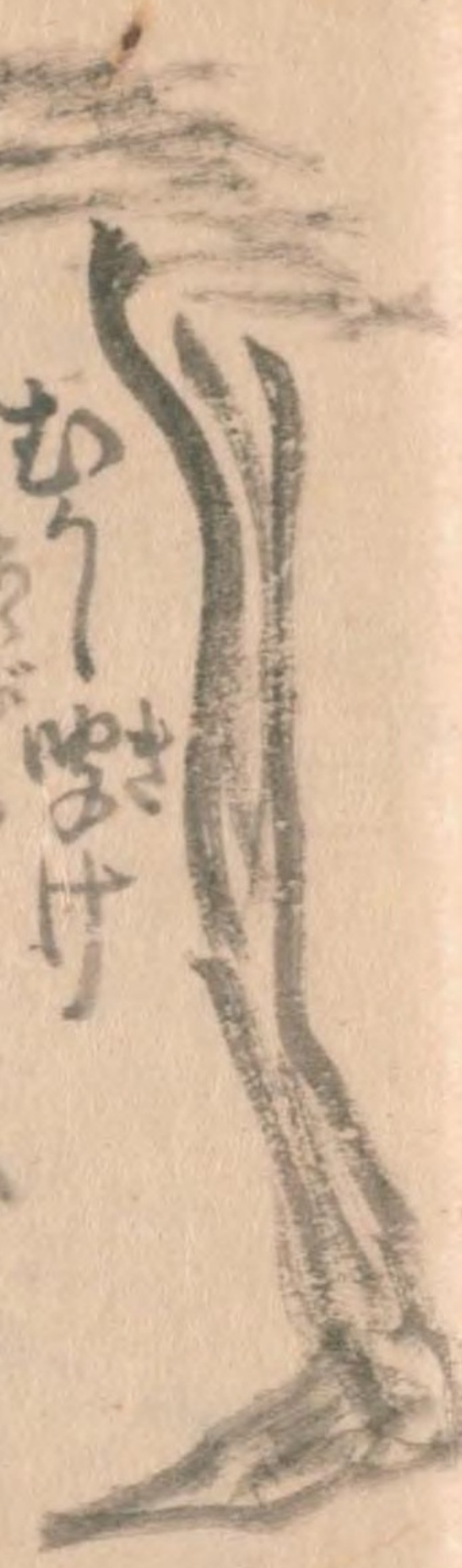


今宵も  
信や  
辻相模



瀬谷

むしり  
穂文どの  
角か



七ツや  
おの

せが  
いらは



久月や  
つのお

七ツ



一  
ひ



ためさん  
ち

紅  
お

雅  
お



おの





谷月や  
雪のとき  
後高  
三井寺の  
門の  
月の

谷月や  
さうさう  
橋の  
舟

永とあり  
帆とあり  
風の  
芭蕉  
初夜や  
あふ  
あふ

一家の  
おの  
秋と月



あふ  
あふ

あふ  
あふ

鬼灯の  
あふ  
あふ  
あふ

















山の麓  
その麓  
あか  
し



三味  
せん  
あか  
あか  
あか  
あか  
あか

あか  
あか  
あか  
あか  
あか  
あか

あか  
あか  
あか  
あか



あか  
あか  
あか  
あか

あか  
あか  
あか  
あか  
あか  
あか  
あか  
あか

あか

あか









米<sup>こめ</sup>松<sup>まつ</sup>馬<sup>うま</sup>も  
 雁<sup>かり</sup>鳴<sup>な</sup>く<sup>く</sup>山<sup>の</sup>の<sup>山</sup>の<sup>山</sup>

松<sup>まつ</sup>の<sup>の</sup>二<sup>に</sup>見<sup>み</sup>ふ

行<sup>ゆ</sup>秋<sup>あき</sup>丸<sup>まる</sup>

世<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>申<sup>まう</sup>

鶯<sup>うす</sup>の<sup>の</sup>尾<sup>お</sup>の<sup>の</sup>



十<sup>じゅう</sup>三<sup>さん</sup>三<sup>さん</sup>入<sup>い</sup>  
 三<sup>さん</sup>つらふ  
 雲<sup>くも</sup>の  
 ち<sup>ち</sup>ん<sup>ん</sup>ん

帳<sup>とん</sup>掛<sup>が</sup>や  
 何<sup>なに</sup>の<sup>の</sup>焼<sup>や</sup>け  
 箱<sup>はこ</sup>の<sup>の</sup>えん  
 ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>し  
 行<sup>ゆ</sup>秋<sup>あき</sup>丸<sup>まる</sup>  
 雁<sup>かり</sup>の<sup>の</sup>尾<sup>お</sup>の<sup>の</sup>



十<sup>じゅう</sup>三<sup>さん</sup>三<sup>さん</sup>入<sup>い</sup>  
 行<sup>ゆ</sup>水<sup>みづ</sup>の<sup>の</sup>尾<sup>お</sup>の<sup>の</sup>

雲<sup>くも</sup>の  
 ち<sup>ち</sup>ん<sup>ん</sup>ん



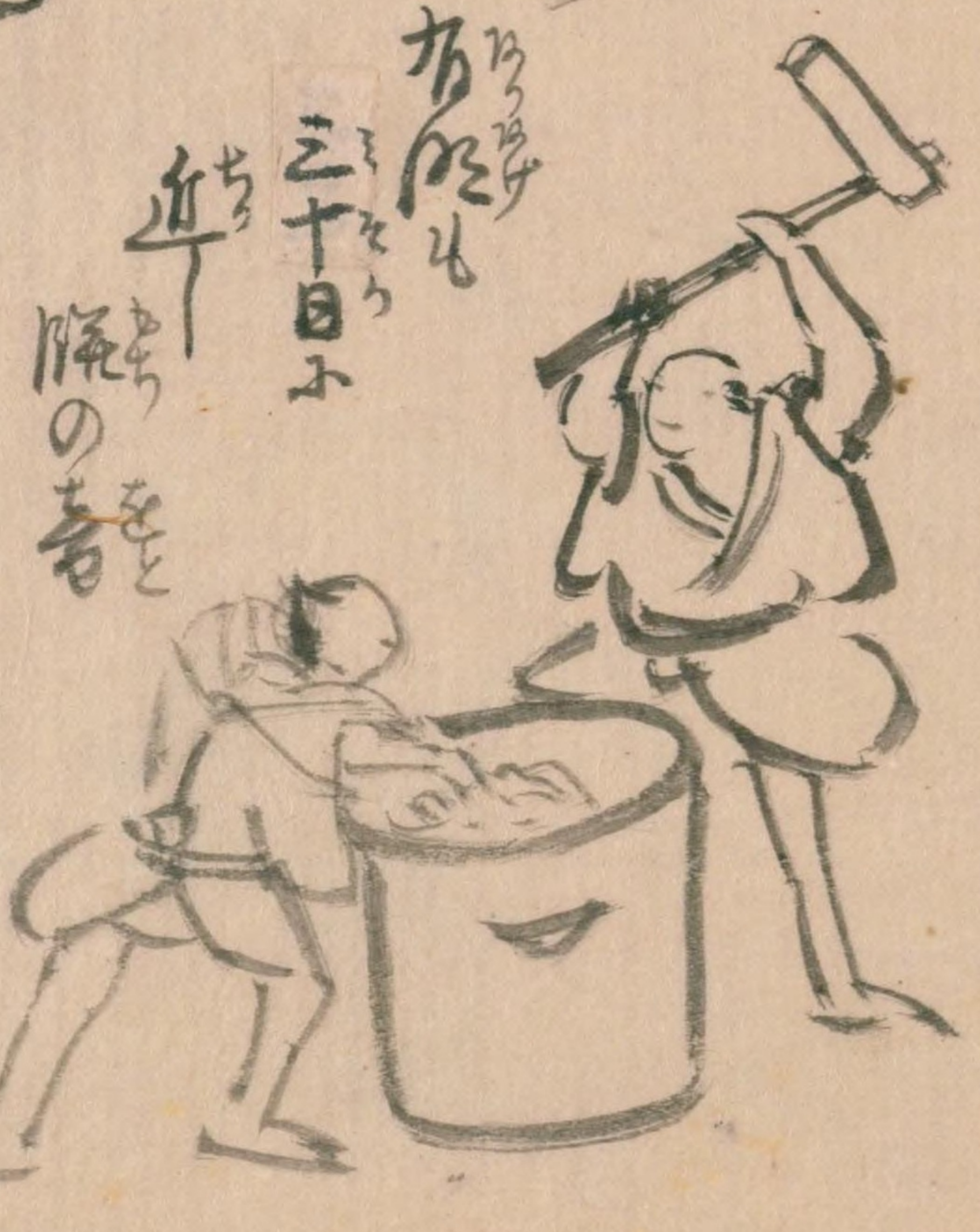
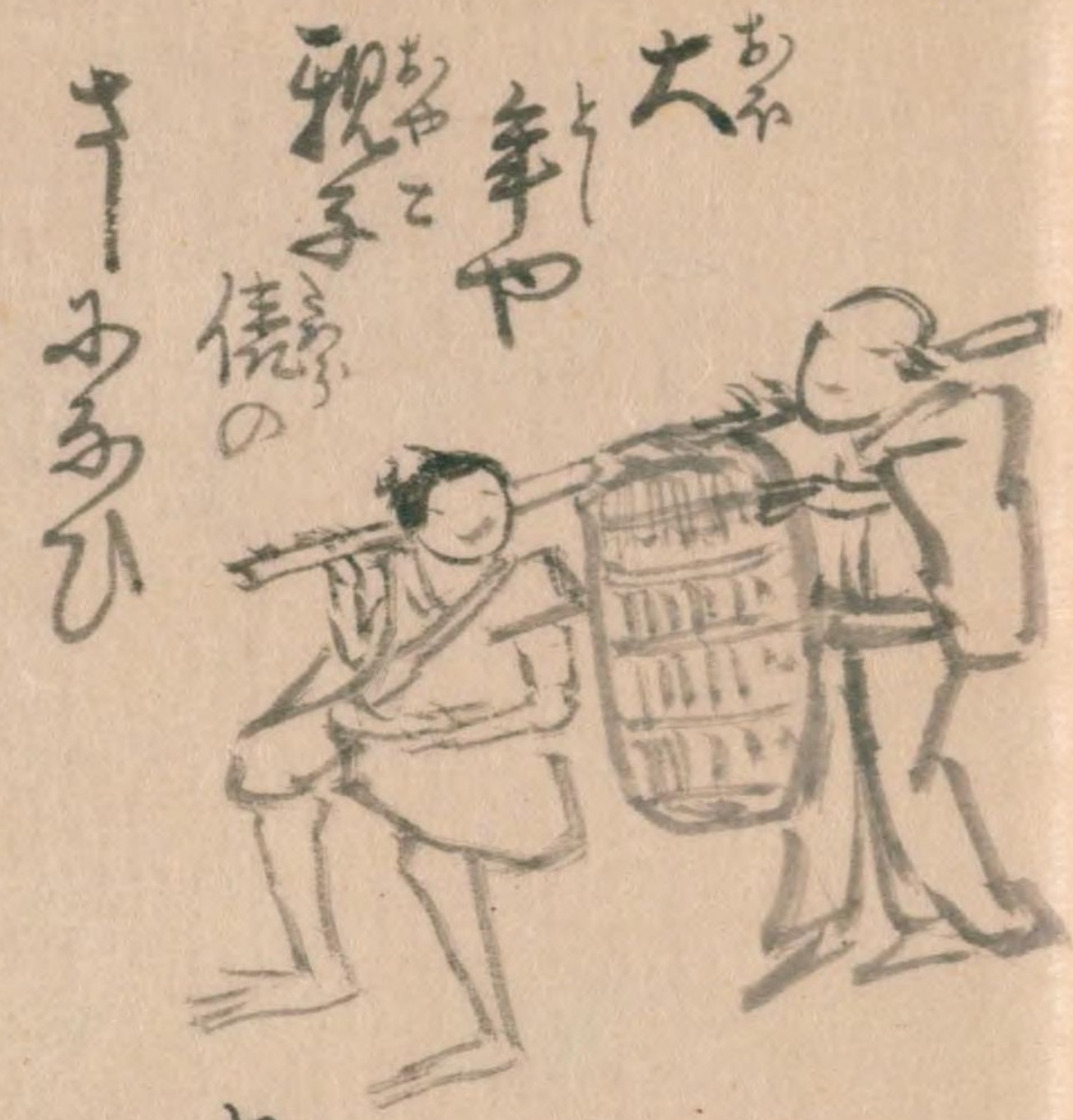








今更け  
上白  
花



車  
年  
の  
音

豆  
次  
郎  
の  
声  
中  
あ  
る  
あ  
ひ  
あ  
ひ



た  
り  
子  
の  
目  
小  
あ  
ひ  
あ  
ひ



あ  
ま  
り  
の  
音  
あ  
ひ  
あ  
ひ

あ  
ま  
り  
の  
音  
あ  
ひ  
あ  
ひ



少林一様



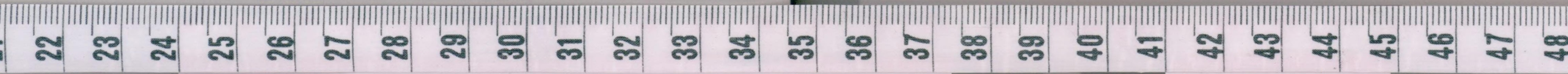


京乙  
342

早稲

竹竿  
大吉  
利市





国立国会図書館 タイトル『俳諧漫画』 請求記号 寄別5-5-3-4

ガラス使用

